

☒令和元 年度 事務事業評価(平成30年度実施事業事後評価)シート

／

令和2 年度 実施計画調書

(

☐新規


☐拡充


☐縮小


☐休止・廃止


☒現状維持


)

1 事務事業の基本情報										 位置付けられている計画等で『その他の計画』が複数ある場合は、代表的なものを1つ記入してください。また、該当する根拠法令及び市条例等が複数ある場合、代表的なものを1～2個記入してください。										整理番号		032																
事務事業名		認知症高齢者見守り事業					補助区分		<input checked="" type="checkbox"/> 国補 <input checked="" type="checkbox"/> 県補 <input type="checkbox"/> 市単		終期		<input type="checkbox"/> 決まっている (年度まで)		<input checked="" type="checkbox"/> 決まっていない		予算科目		区分		介護保険特別会計		款		03		項		03		目		02		事業		05	
担当部		保健福祉部		担当課		幸せ長寿課		担当係		支援		係																										
位置付けられている計画等		<input type="checkbox"/> じょうそう未来創生プラン前期基本計画										<input type="checkbox"/> 市長マニフェスト「常総創生への道しるべ」										根拠法令及び市条例等		<input checked="" type="checkbox"/> 国の定める法律 (名称: 介護保険法, 介護保険法施行令, 介護保険法施行規則)														
		<input checked="" type="checkbox"/> 常総市復興計画										<input type="checkbox"/> 市民等からの要望												<input checked="" type="checkbox"/> 国・県からの通達等 (名称: 地域支援事業実施要綱, 認知症施策推進総合戦略会議(新オレンジプラン))														
		<input type="checkbox"/> 常総市まち・ひと・しごと創生総合戦略										<input checked="" type="checkbox"/> その他の計画 (名称: 常総市高齢者プラン 老人福祉計画改定・第7期介護保険事業計画)												<input checked="" type="checkbox"/> 市の条令・要綱・規則等 (名称: 常総市行方不明高齢者SOSボランティア事業実施要綱)														

2 事務事業の目的										 当該事業を実施することで、①「望ましい状態」とはどのような状態か？→ ②一方で、「現状や課題」はどうか？→ ③そのためには何をするべきか？ という過程で考えていただいても結構です。																									
現状課題		認知症高齢者が外出して戻れなくなる、日常生活が困難な状況にあるなど、地域で認知症高齢者の保護や見守りなど、認知症に対する理解を深め、捜索や見守り支援などができる市民を養成する事業。行方不明になる前に、近隣で早期発見できないこともあるため、より多くの市民に認知症に対する知識の習得などを図る必要がある。										誰・何を対象に		【行方不明高齢者SOSボランティア事業】市内在住または市内の介護保険サービス事業所に勤務している者、介護予防・認知症・ボランティア活動に関心のある者など。 【認知症サポーター養成講座】認知症の知識を深めたい市民。										望ましい状態		新オレンジプランは、認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域の良い環境で自分らしく暮らし続けることのできる社会の実現を目指している。認知症の初期にはもの忘れからご近所等とのトラブルが起きやすく、認知症の進行により行方不明状態となった場合、生命も危険にさらされることになる。これら避けるためには「誰しもが認知症とともに生きることになる可能性があること、また、誰もが介護者等として認知症に関わる可能性があること等、認知症は身近な病気であるこ」とを多くの市民の方に理解していただく必要がある。									

3 事務事業の主たる成果指標										 数値目標(定量)の設定が困難な場合は、文言目標(定性)でも結構です。なお、指標名・目標値とも設定が困難な事業は空欄でも結構ですが、この場合、設定できない理由を分かりやすく・具体的に記入してください。																			
指標名		行方不明高齢者SOSボランティア登録者数および認知症サポーター数		単位		人		目標値		(SOS)300人(認サ)3,000人		目標年次		2020		年度		指標及び目標値設定の考え方(又は指標・目標値を設定できない場合の理由)		高齢者が認知症になっても安心して生活を続けられるようにするためには、地域住民に対し、認知症に対する正しい知識を深めるとともに、高齢者の見守り及び生命・身体の安全並びに家族等への支援等が必要である。よって行方不明高齢者SOSボランティア登録者数および認知症サポーター数の人数を指標とする。(高齢者プランでも同じ目標をあげている)									


4 事務事業の実績 ㊦										 当該事業の予算を使って、『どのような業務をどの程度実施したか。』を記入してください。なお、業務が12個以上ある場合、代表的なものを最大12個記入してください。																					
年度		平成28年度					平成29年度					平成30年度																			
		業務名			活動量		業務名			活動量		業務名			活動量																
事務事業を構成する主な業務		① 行方不明高齢者SOSボランティア養成研修の周知活動			年1回		① 行方不明高齢者SOSボランティア養成研修の周知活動			年1回		① 行方不明高齢者SOSボランティア養成研修の周知活動			年1回																
		② 養成研修に伴う講演の依頼					② 養成研修に伴う講演、寸劇等の依頼					② 養成研修に伴う講演、寸劇等の依頼																			
		③ 行方不明高齢者SOSボランティア養成研修					③ 行方不明高齢者SOSボランティア養成研修					③ 行方不明高齢者SOSボランティア養成研修																			
		④ 行方不明高齢者SOSボランティア登録および管理					④ 行方不明高齢者SOSボランティア登録および管理					④ 行方不明高齢者SOSボランティア登録および管理																			
		⑤ 認知症サポーター養成講座の周知活動					⑤ 認知症サポーター養成講座の周知活動					⑤ 認知症サポーター養成講座の周知活動																			
		⑥ 認知症サポーター養成講座					⑥ 認知症サポーター養成講座					⑥ 認知症サポーター養成講座																			
		⑦ 認知症サポーター養成講座の教材やオレンジリングの管理					⑦ 認知症サポーター養成講座の教材やオレンジリングの管理					⑦ 認知症サポーター養成講座の教材やオレンジリングの管理																			
		⑧ 認知症サポーター養成登録および管理					⑧ 認知症サポーター養成登録および管理					⑧ 認知症サポーター養成登録および管理																			
		⑨					⑨					⑨																			
		⑩					⑩					⑩																			
		⑪					⑪					⑪																			
		⑫					⑫					⑫																			
		目標値に対する実績値			人		目標値に対する実績値			人		目標値に対する実績値			(SOS)182人(認サ)1,928人		人														
決算額		計		11,400 円		内訳		特定財源		円		計		134,338 円		内訳		特定財源		108,478 円		計		259,388 円		内訳		特定財源		209,456 円	
				一般財源		11,400 円				一般財源		25,860 円				一般財源		49,932 円													
		(住民一人あたりの行政コスト)		0 円		(住民一人あたりの行政コスト)		2 円		(住民一人あたりの行政コスト)		4 円																			

7 実施計画 ㊦										 今後3年間の事業内容について、どのようなことを・どの程度実施していくつもりなのか、具体的に記入してください。なお、予算額の『歳出の計』と『歳入の計』は一致させてください。																											
年度		令和元年度					令和2年度					令和3年度																									
事業内容		◆行方不明高齢者SOSボランティア養成研修の周知活動 ・チラシの全戸配布、市ホームページ、地域ケア個別会議等において民生委員および介護支援専門員等にも周知活動 ◆養成研修に伴う講演、寸劇等の依頼 ◆行方不明高齢者SOSボランティア養成研修 ◆行方不明高齢者SOSボランティア登録および管理 ◆行方不明高齢者SOSボランティア受講者数 ・行方不明高齢者SOSボランティア登録者総数 ◆認知症サポーター養成講座の周知活動 ◆認知症サポーター養成講座 ◆認知症サポーター養成講座の教材やオレンジリングの管理 ◆認知症サポーター養成登録および管理 ・認知症サポーター受講数 ・認知症サポーター登録者総数					◆行方不明高齢者SOSボランティア養成研修の周知活動 ・チラシの全戸配布、市ホームページ、地域ケア個別会議等において民生委員および介護支援専門員等にも周知活動 ◆養成研修に伴う講演、寸劇等の依頼 ◆行方不明高齢者SOSボランティア養成研修 ◆行方不明高齢者SOSボランティア登録および管理 ◆行方不明高齢者SOSボランティアフォローアップ研修 ◆認知症サポーター養成講座の周知活動 ◆認知症サポーター養成講座 ◆認知症サポーター養成講座の教材やオレンジリングの管理 ◆認知症サポーター養成登録および管理 ◆認知症サポーターフォローアップ研修					◆行方不明高齢者SOSボランティア養成研修の周知活動 ・チラシの全戸配布、市ホームページ、地域ケア個別会議等において民生委員および介護支援専門員等にも周知活動 ◆養成研修に伴う講演、寸劇等の依頼 ◆行方不明高齢者SOSボランティア養成研修 ◆行方不明高齢者SOSボランティア登録および管理 ◆行方不明高齢者SOSボランティアフォローアップ研修 ◆認知症サポーター養成講座の周知活動 ◆認知症サポーター養成講座 ◆認知症サポーター養成講座の教材やオレンジリングの管理 ◆認知症サポーター養成登録および管理 ◆認知症サポーターフォローアップ研修																									
成果指標		指標名		行方不明高齢者SOSボランティア登録者数および認知症サポーター数		単位		人		目標値		(SOS)235人(認サ)2,560人		指標名		行方不明高齢者SOSボランティア登録者数および認知症サポーター数		単位		人		目標値		(SOS)300人(認サ)3,000人		指標名		行方不明高齢者SOSボランティア登録者数および認知症サポーター数		単位		人		目標値		(SOS)350人(認サ)3,200人	
予算額		歳出		計						536 千円		歳出		計						497 千円		歳出		計						497 千円							
				特定財源						433 千円		歳出		特定財源						383 千円		歳出		特定財源						383 千円							
				一般財源						103 千円		歳入		一般財源						114 千円		歳入		一般財源						114 千円							
				計						536 千円		歳入		計						497 千円		歳入		計						497 千円							

8 財務アドバイザーの見解									
『常総市財政健全化計画』では、2017～2019年度までの3年間で約20億円の財源不足が生じる可能性が指摘されている。この厳しい財政状況を鑑み、本事務事業は2020年度の当初予算の要求において、その一般財源金額については費用対効果が最も高いことが期待される2019年度の一般財源予算額の金額以下の予算要求を行うべきである。当該金額の枠内で最大の効果を発揮する、市民目線の筋肉質な事務事業の計画と実行を期待する。									

9 行政改革懇談会(市民)の意見									
担当部長及び担当課長評価のとおりでよい。 今後認知症患者はますます増加すると予想され、行政側の負担も大きい。他の介護支援事業も併せ、長期的なプランに基づき一体的に展開していくべきである。認知症サポーター、SOSボランティアの養成講座数を増やすなど事業の拡充をお願いする。									

10 最終評価(行政改革推進本部) ㊦									
事務事業の方向性									
<input checked="" type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 現行どおり <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止・廃止									
評価理由									
認知症高齢者対策については、高齢化が進行していく中で今後増えていく認知症患者を支援していくうえで、重要な事業となっていく。そのため、認知症の正しい理解の周知と支援ボランティアの養成については、今後も拡充が必要な事業である。									

11 事務事業の改善理由及び改善部分 ㊦										 実施計画のみ作成する場合の拡充・縮小・休止廃止部分もこの欄に記入してください。									
事業内容										今後認知症患者数は年々増加することが予測されており、これまで以上にSOSボランティア、認知症サポーターの需要は高まるものと推測される。そのため、現在行っている新規SOSボランティア、認知症サポーターの養成研修のほか、定期的な勉強会など現任者のフォローアップ研修も必要となってくる。									